

刊夕日六月四

# 常磐每日新聞

定価 一月五拾五圓 郵費五圓  
 廣告料 五圓以上 一行五拾圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

## 念珠の智識と由來功德

眞 繼 雲 山

二十七といふ数の念珠はこれ又五十四顆の半數、百八珠の四半分に當るといふこと以外に、聲聞乘位の二十七賢聖を象つたのであります。聲聞緣覺の修業の最高位が阿羅漢でありまして羅漢となるためには四向四果といふ修業の階段を経ねばなりません。その四向三果までに十八有學、後の一果に九の無學の位があります。いづれも凡夫にては叶はず聖者のゆくべき道でありますから、これを二十七賢聖と申したのであります。二十一といふ数の念珠は本有の十地と修生の十地と合せて二十それに佛果の一位を加へたものであります。本有といふのは先天的に本來なへてあるところの位修生といふのは生れて後に修業して得たところの十の位であります。本有の玉といふ素質がなければ磨いたとて光りは出でず玉の素質あればとて磨かねば光りは出でず、本有と修生とは修業の上に切り離すことの出來ぬ双翼兩輪であります。しかも私たちは本來悉有佛性と申して、皆様と共に佛

となりますべき佛性(玉の素質)を有つてゐるのでありますから二十一珠の意味を生かして修業に精進せねばならぬことでもあります。

十四といふ珠の數は、十住と十處と十廻向とを約して三に數へ、それに十地と妙覺とを加へた數であります。その内容は五十四位と少しも異つたものでなく、要するに五十四位の略式であります。

右の外に淨土宗にて主として用ひられる三十六顆の念珠は、百八を三分したるのまた禪家などに用ひられる十八顆の念珠は同じく百八を六分したもので、數そのものについては特種の意味でなく單に百八珠を約して携へやすきやう、且つ次第に述ぶる數取りをなす場合に、三倍あるひは六倍にして百八に滿つるに便したものであります。以上にて數についての念珠の由來を説きはりました。

六、形より見た念珠の緣起

念じゆは皆様御承知の通り百八(その他)の小じゆと一箇の親玉とから成つて居ります。親玉といふは俗語であります、正しくは母じゆといふべきであります。さて百八の小じゆは百八の煩惱を——轉じては百八の功徳を表したものであります。その内の母じゆは阿彌陀佛を表しこれを貫通する緒(糸)は觀世音菩薩を表したものであります。これは眞言宗の大切な口傳たる『高雄口訣』にも『母じゆを無量壽佛となし、これ貫通する緒を觀音となし百八じゆを位次となす』と明らかに示されてあります。即ち五十四位の行因たる小じゆは、觀音大悲の繩線によつて彌陀の行果に達するといふ意味であります。されば一連の念じゆを一つの世界と觀じますとき、そこにお二方の阿彌陀佛がゐたまふ謂はれがないやうに一連の念じゆには母じゆが必ず一個に限るのであります。これは『陀羅尼集經』にも『一百八顆の水精じゆを作り已らば、又一の金じゆを作りて母じゆとなし、又更に十顆の銀じゆを作りて以て記子に充てよ、これ即ち三寶圓滿の義なり』とあります。

即ち一連の念じゆに必ず母じゆは一個と限られてゐる筈であります。それが古來の通軌であります。

### ◎店員募集

年令十五才以上希望者は至急御來所を乞ふ  
 ◇委細面談  
 平町鍛冶町

### 牛久製菓所

電話三八七番

### 露披御車新

三四年型デラックスセダンが  
 入荷致しました  
 貸切の御用命の節は  
 電話六八五番へ……  
 是非御試乗の程を願ひます

### 三井タクシー

電話六八五番

### 旭屋一六銀行

御利用を盛んに御取扱中  
 四百二十五番の電話次第  
 御便宜直様御取運び致します

### 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町六九  
 喜多流 謠曲 仕舞 白土會  
 電話一二七番

### 耳鼻咽喉科専門

### 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男  
 平町田町(電話五八番)  
 藤田女學校前  
 自炊のお需めに應ず  
 入院の便あり

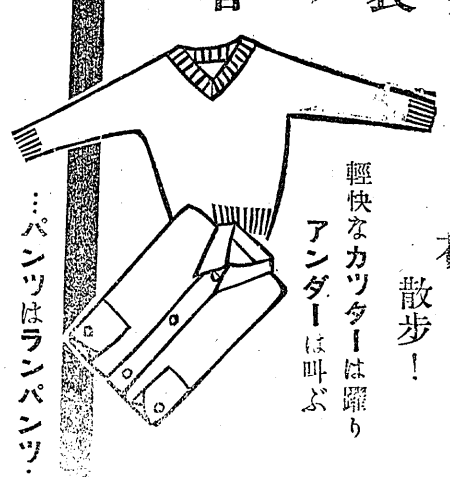
石炭  
 コークス  
 炭

### 阿部石炭商店

電話三七七番

### 春の装具

春! 花! 散歩!  
 軽快なカッターは躍り  
 アンダーは叫ぶ  
 ……パンツはランパンツ…



山家メリヤス店

### 折詰

辨當仕出し  
 鳥金ぶら  
 大和漬  
 軽くしてうま味  
 もよく滋養に富む  
 ぜひ一度御試  
 食下さい



電話四五〇

### 中村齒科醫院

平町鍛冶町七

# 平商と三小學校に

## 三十万圓の火災保険

### けふ平町が二十五代理店と契約

## 一社一萬二千圓に協定

既報平町では市内三小學校及び商業學校等に火災保険を契約すべく本日午前十時より市内各社代理店主廿五氏を招き打合せを行つた結果第一校九萬圓、第二校十萬圓、第三校六萬圓、商業五萬圓、合計三十萬圓の保険契約金は出席廿五代理店を等分して契約することに

### 理髮組合

## 東部總會

九日平署會議室で平町外植田、四倉、浪江、富岡、原町、中村各署管内の東部理髮業組合總會は来る九日午前十一時より平署會議室に開かれ縣下大會提出議案及び役員改選を行ふ

## 郡下徴兵検査の執行日割決定

### 平町は來月廿五日

石城郡下各町村に於ける本年度徴兵検査は来る五月十七日より十四日間に亘り平第一小學校講堂に於て執行されるが總人員は二千八百八十名で各町村の割合は左の如くである

- (十七日)大野 大浦 草野(十八日)四倉 赤井
- (十九日)川前 下小川組 合 内郷(二十日)湯本
- 平窪(二十一日)小名濱町
- 神谷(二十二日)永戸組合
- 磐崎 玉川(二十四日)高久 好間(二十五日)所
- 平町(二十六日)入遠野

共來る十四日からであると

### 四時橋架替

## 五月着工

### コンクリートのモダン橋に

川部村字小川地内の四時橋は腐朽の爲め一般交通に制限を加へて居たがいよいよ工費一萬五千圓で架替へる事となり五月下旬着工するが新橋はコンクリートのモダン橋であると

## 函館義捐金

### 役場吏員が

#### 十一圓釀出

平町役場で取纏中である町内各區の函館義捐金は未提出であつた南白銀、北目其他も本日提出したので累計は豫定の千圓を突破し千六百一十圓十錢に達したが未だ二、三未提出の所もあるが二三日中には全部纏も模様である

南白銀四十四圓八十五錢  
北目十五圓 役場吏員十圓六十一錢

### 教員保母

#### 濱通りに

於ける本縣小學校教員及び幼稚園保母檢定試験は来る五月二十一日より五日間平第三小學校講堂に於て行はれるが願書締切は来る十五日である

## 勤績二十年の

## 柏原平消防副組頭

### 八日の消防幹部會で

#### 全氏外三名を表彰

既報來る八日午前十時より平第三小學校で開かれる平署管内消防組幹部會で表彰される永年勤績組員は過般より平署で調査中であつたが今日左の四氏と決定當日表彰されると

- (平)柏原幸次郎廿年 根本幸次郎廿二年(鹿島)佐藤米治十年(二坂)吉田隣三郎廿年

## 平第二校

## 級長任命

平第二小學校では本日今學年度に於ける第一學期間の

各學年正副級長を左の如く任命した

- ▲三ノ一田卷隆子 磯貝シヅエ
- ▲三ノ二菅野榮子 中野静子
- ▲三ノ三正木田鶴子 佐藤豊
- ▲四ノ一葉恰子 東條正子
- ▲四ノ二横山言子 石川サイ子
- ▲四ノ三友部宮子
- ▲五ノ一梅津吉子 國井アキ
- ▲五ノ二馬目静子 木田秀子
- ▲五ノ三酒井良子 江尻キヨ子
- ▲五ノ四櫻庭美代 村山佳子
- ▲六ノ一平澤タカ 桑田

## 剣道の猛者四十名

## 過般の階級試験の結果

### 本部から免狀交付さる

既報二月廿六日より三日間平署道場に於いて行はれた日本武徳殿の階級試験の結果は本日東京本部より平署に通知があつたが合格者は初段十六名、二段十八名、三段八名である

- (初段)四倉横山時亮 湯本星善作 草野白木雅吉 玉川橋本佐多壽 橋本雄吉 大久柴田義一 大野横山正夫 永戸松崎叶
- 四倉佐藤寅藏 平署込堂親夫 桑原政雄 高子興三郎 志田市藏 磐中生 蛭田未藏 栗城嘆 志賀義一(二段)大浦赤津辰三 平桐原純英 齊藤光正
- 館内安 鈴木三郎 芳賀平三郎 湯本菅野四郎 菊地敏彦 高橋長兵衛 梁井淺之助 大浦大平一 植田小松留次郎 平署大

## 磐女校友會

## 久之濱慰問

酒井教諭を派遣 磐女校友會では過般激浪に見舞はれた久之濱町の校友會員宅を慰問することになり本日校友會長代理として同校酒井教諭を派遣して各家庭を歴訪懇篤なる慰問の言葉を述べるところあつた

## 磐女教諭着任

磐女では本日過般の異動に依り新任された西川幸雄、野口ハナ兩教諭の着任披露式を舉行したが西川氏は英語、野口氏は家事科を各擔任すると

## 北海屋の餅飴

### 平驛ホームで賣る

平町二丁目北海屋の販賣する「もち餅」は販賣開始以來二ケ年を経て聲價益々高くなりつつあるが今回鐵道省との交渉成り平町名産物として平驛ホームから賣り出すことになつた

## 少年赤十字團 入團式

### 平第一校で

平第一小學校では明日午前

## 會葬御禮

### 石山一治

# 井上縣議等の公判

## 傍聴人が目白押し

### 土地特買の事情に關し

#### 金裁判長が詳細に訊問

既報一井上茂作、色川勝三郎、佐藤三平三氏に係る破産法違反事件の公判は本日午前十時から平支部公判廷に開かれたが

## 法律上種々錯々せ

る意見あるべしと一般の注目を引いて居る事件に定刻前から傍聴者詰め掛け廷内は早くも目白押しの光景で井上氏の爲めに無罪論を主張せんと遙々東京から來延した磯部尚辯護士、同じく稲本鏡之助辯護士、仙臺からの増田秀雄、伊藤三秋の兩

## 辯護士を始め千葉、大嶺、松野、尾武田の地元

四辯護士が列席して開廷を待つ、各辯護士の各被告分擔は左記の通り

(井上)千葉、大嶺、磯部 (佐藤)松野尾、稲本、増田 (色川)武田、伊藤

斯くて福島地方才判所よりの金才判長、氏家、松田兩陪席判事、清田檢事、澤田書記着席、先づ色川氏の訊問に始る

## 色川氏

は豫審の申立てには多少の思ひ違ひがあるが金銭收受は是れを認むる旨を前提として一々才判長よりの訊問に對し左記の

如く答へた

問題の土地は馬目酒店や關野油店等でも買ひ度い意圖のあるのを知つて佐藤氏と共に特買の形式に依つて逸早く入手せんと三平氏の兄である佐藤久三郎氏を介在し井上氏にその斡旋方を頼んで日本銀行の福島支店に交渉して貰つた、多分昨年四月頃と記憶します日銀では甘圓程度なら賣つてもよとの意を洩らしたとの事で自分達は坪十五圓乃至十八圓なら買ふ積りで居たのだから相當値開きはあつた、その後漆畑、永野の兩管財人が甘圓五十錢でなければ賣れぬと主張して居るとの事に間に這入つた井上氏の顔を立てる意味でその値段に依り特買するの意を固め承諾したのである其當時は井上氏が管財人の破産監査委員の一人であつた事は知らなかつた爲め丁度町會の改選期になつたので佐藤氏と共に百圓宛を陣中見舞に提供し、更らに六月二人で三百圓宛六百圓を謝禮に贈つたのである

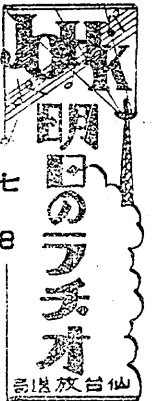
## 追求し色川氏は「夫

れは土地の按分と混同して感違ひの結果申立てたので、井上氏は左様には申しませんでした」と陳述、次ぎに佐藤氏の訊問に移り色川氏同様の答へにて井上氏の訊問に及ぶ才判長は被告人は此地方の有力者で誠に氣の毒ではあるが改し方がないから詳細に申立られたし

## 佐藤氏とは同じ消防

組頭の仲間であり關係深く從來種々の犠牲を拂つて居たと述べ自分は管財人に圖らず日銀に賣買の交渉を直接持ち込んだので管財人には多少の面白くなしと感じられたのか、甘圓五十錢でなければ賣らぬと兩管財人が主張するの

で止むを得ず兩人を説いた處、夫れでよとして賣買が



今晩も明日も西 南の風天氣良し

## 今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇忠犬ハチ公出演東京放送童話劇協會
- 後六、三五 三都對局新進 勝拔將棋手合解説木村義雄
- 後七、三〇 京城より講演 「朝鮮の鑛業に就て」朝鮮
- 後八、〇〇 萩江節 鐘が
- 後八、一〇 義太夫 大阪
- 後八、二〇 新町演舞場より中繼 豊竹駒太夫
- 後九、五五 日本棋院春季 東西大手合戦續
- 後九、三〇 時報 ニュー

## 裁判長の訊問通り肯

定し武田、大嶺其他辯護士より色川氏に對する補充じ問あつて正午一先休憩

## 井上氏に

### 懲役五月

#### 追徴金八百圓

清田檢事の求刑別項一同公判は午後一時再開、辯護人の補充尋問ありて後清田檢事立つて峻烈なる論告をなし「被告井上を懲役五ヶ月追徴金八百圓、佐藤、色川の兩被告に罰金三百圓を相當と認める」旨の求刑あり各辯護人交々無罪論を強調して五時半閉廷した

## 裁判所たより

- △湯本町大字湯本字櫻本町賣藥行商小澤武雄(三)は去月八日正午頃同町吹谷白鳥ミヨシ方に於て金銭賭博をなし罰金二十圓
- △上小川村大字福岡字喜平後四八農箱崎保次郎(三)は無免許で去る一月頃より二月頃迄の間同村地内山林に

## 人妻を巧みに欺き

### 小笠原島の酌婦に

潜り周旋屋逮捕さる

内郷村大字宮字金坂居住潜り周旋屋海東隆夫(三)は本月一日隣家の蓄音機商廣部友治郎の妻ナツ(三)を言葉巧みに誘拐し小笠原島で酌婦に賣飛ばすべく東京より來船したがナツの夫友次郎が平署に搜索願を出したのて同署の手配により昨五日兩名が小笠原島に到着した處を同地警察署員に取押へられた

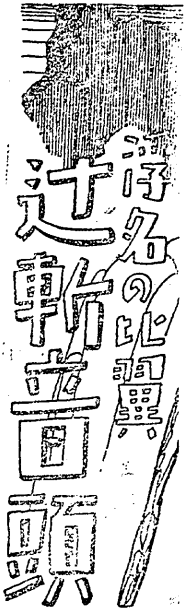
## 炭車から轉落

### 電工夫無慘、骨折轢死

好間村大字北好間字堂田萩原炭礦電工夫猪狩真紀(三)は去る四日午後四時頃トロッコに乗車中誤つて轉落左肋骨

## 明日の部

- 前七、二〇 聖典講義「佛敎の要義」(四)山邊習學
- 前九、一〇 料理献立「牡丹卷」成田玉純
- 前一〇、三〇 家庭婦人講座「箏曲」宮城道雄
- 前一、五〇 東京大學野球聯盟極東大會派遣チー
- △證術試合實況(神宮より中繼)
- 後〇、〇五 掛合嘶「桂川」
- 後〇、一〇 家庭婦人講座「現代青少年の傾向」
- 後二、〇〇 家庭婦人講座「母の責任」帆足みゆき
- 後五、三五 講演「花祭の話」石籠文堂
- 後六、〇〇 子供の時間 お話「歴史に現はれた櫻文學博士中村孝也」
- 後六、二五 講演「本邦化學工業發達史觀」工學博士井上仁吉
- 後七、三〇 時事解説「花の週間(第五日)」
- 後八、〇〇 マイクロフオシロケーション「祇園の夜櫻」京都祇園園山公園より中繼
- 後九、〇〇 長唄「四季の山姥」杵屋彦登喜外



田邊南龍(作) 山本英春(書)

犬の事から双傷

因幡伯耆兩國の太守松平相模守の家中にて六百石を頂いてある平井庄左衛門文武兩道に達した天晴れの武士妻女は先年没しまして、當年十七才になる伴権八の成人を樂しみにしてゐる權八は家中に於ても評判の美少年且つ父に劣らず文武に達し就中居合の術に長じてをります、ある日の事庄左衛門が御殿より退つて参りましたが何日になく顔色が悪い權八心配をして

強いと、暗に拙者を情弱者と云はんばかり満座の中に余りの過言、言ひ争はんとは心得たが、兎や角申せば互に武士の意地、双傷沙汰に相成るは當然、さする時には御主君に不忠、又先

ある方は拙者の心中を御推察下され様と存じたゆゑ汝も將來に御奉公を致すやうな事に相成るとも、父が今日の辛抱を思ひ出して、決して争ひなど致しては相成らん、武士の命は御主人の御馬前に於て捨てるが本望、私の怨みなどより無暗に人を傷つけたりなど致しては相成らん助大夫の事も最早過ち去りしものなれば根に葉に持つ様な事があつてはならん、其方に教訓の爲此話を致しておく」

念で、堪らないおのれ本庄助大夫、能くも我が父を満座の中に恥しめたな殿中なれば家にも障らうが他の場所なれば拙者の一人のお咎めだけで相濟まう宜し本庄の家へ切り込んでやらう、夫に就ては拙者の番差では充分の働きの出来ん父が秘蔵の名刀、無銘なれど勢州村正だといふ事だ、あれを一ツ借用して行かう刀箆筒から取出した無銘の村正白鞘物であるのを引抜いて、己の刀の鞘に嵌めて見ると、ピツタリ合ふ之は巧いと目釘を抜いて、スツカリ己の帯刀と摺替て了ひブイと我が家を立出で急ぎ來つた本庄助大夫の屋敷、助大夫は八百石で物頭役でありますから却々立派な住居だ門を入ると足許へノン、と這ひ寄つて來たのは例の赤犬だ。

「この畜生の爲に斯様に相成つた又飼犬の黒斑を噛み伏せたといふ憎い奴」と思ふと權八、モウ我慢が出来ない抜き打ちに赤犬をポロリと打落した。



祖より譲られたる此の平井の家に過ちある時は亡き親への不孝、且つ又汝を始め奉公人までもが、明日より路頭に迷ふやうな事に相成らう、其の邊の事を考へしゆる臆病者と罵れば罵れ心

聞いて居りましたが「委細能く分りましたが、います、嗚や御無念でございますましたらうに、能く御辛抱下さいました」父の前を退つた權八血氣盛りの事ゆゑアそれが無

「この畜生の爲に斯様に相成つた又飼犬の黒斑を噛み伏せたといふ憎い奴」と思ふと權八、モウ我慢が出来ない抜き打ちに赤犬をポロリと打落した。

小役員数名募集 年齢十五才ヨリ 優遇 御希望の方ハ午後一時ヨリ本人御來談下さい 平町田町一七 レストランサロン 電話三五二番

木村外科科專門院 花柳病科 院醫科外村木 際橋目丁六町平 〇九三話電

藤沼醫院 内科 小兒科 花柳病科 入院應需 町番七〇五 電話

魚清の! 豆 本店自慢の水豆 始めました相變らず御景負願ひます

魚清食堂部 湯殿山教會長伊藤重善氏病氣ノ處藥石効ナク四月四日午後十時逝去致候以紙上御通知に代へ候 敬具 追テ告別式ハ四月七日午前十一時ヨリ午後三時マデ平町六間門湯殿山ニ於テ神葬祭ニテ相營ミ申候 四月五日 平町六間門 三山宗敬教會社務所

耳鼻咽喉科專門 大和田醫院 平町南町 電一七〇番

エビスヤ自轉車店 平局御用 宮田自轉車 代理店 宮田自轉車九年度郵便局納め 五千二百